

mもよく磨かれており、左岸の小さなスタンスを使って越える。幸先が良い。

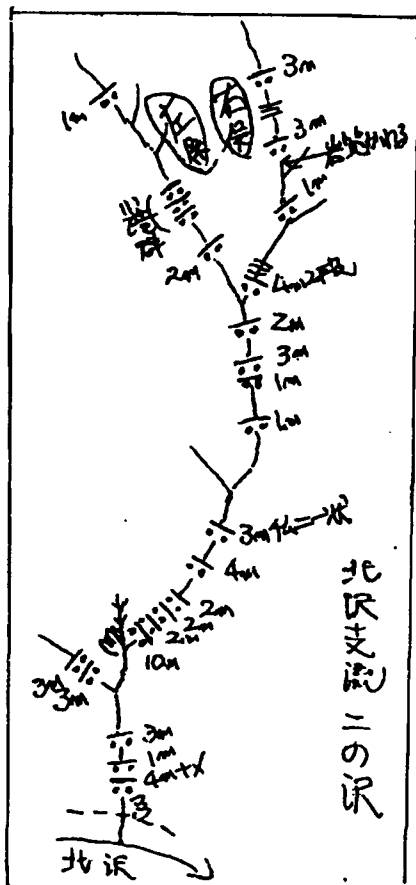
しばらく滝が途絶えて、このまま終わってしまうのかと心配していたら、沢が右にカーブする所に、10mの滝が出てきた。2段になっており、上段はナメ滝となっている。まずは右岸から取り付く。そして、左岸に渡り、直登。コケがついていてスリップしそうになり、ちょっと緊張した。このあとよく磨かれた小滝が続き、4m滝となる。ここは登れない。しかし、左岸から簡単に越えられた。

そのあとしばらくは平凡。やがてよく磨かれてホールドの少ない3m滝となる。水の流れの中に足を入れて直登する。そのすぐあとで二俣。右俣の方が水量は多い。トの沢(仮称)の下降を予定しているので、まず右俣を偵察してから左俣を遡行することにして出発。

出だしは4m 2段の滝。簡単に越える。そのあとは沢が急に細くなった。やがて岩質が変わる。櫃倉破砕帯を構成する黒い岩。そして、岩屑のつまった細い溝状の流れへと変わってゆく。もう源流である。水の流れのなくなったところで引き返す。

左俣は平凡なまま源頭となってしまった。1m以下の小滝が5個連続するあたりにちょっとした変化が見られただけ。途中、いつしか岩質が変わり、破砕帯の黒い岩となっていた。右岸の尾根めざして急な斜面を登る。(記)

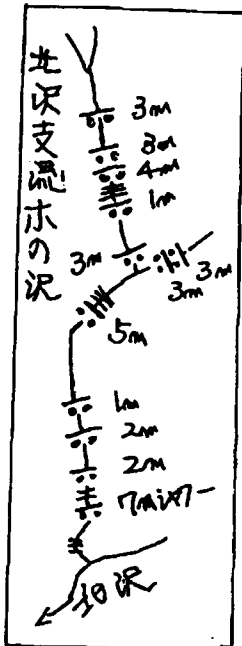
[タイム] 山本不動尊(5:00)→この沢出合(5:25)→二俣(6:00)→右俣終了(6:10)
→二俣(6:20)→左俣終了(6:40)



北沢支流ホの沢

1989年7月8日

ホの沢(仮称)も小さな沢である。しかし、出合すぐに7mの滝をかけている。11:10遡行開始。シャワーで直登して上に出る。そのあとしばらくは小滝だけだ



が、沢が右にカーブしたあたりに5mの滝。左上にのびるバンドを使って直登する。この後も小滝が続き、快速に直登した。

11:30 源頭。引き返すことにするが、登ってきた5mと7mの滝が下れず、いずれも樹林帯を捲いて下る破目となった。

〔タイム〕 遡行開始(11:10)→終了(11:30)

北沢支流トの沢

1989年7月8日

尾根上の小さなコブである641m独標上で小休止。ここのピークは樹林帯の中で、展望はきかない。五来山から続いている尾根上にかすかな踏跡があるが、通る人はいないようである。

7:00 トの沢(仮称)に向けて下降開始。樹林帯の急斜面を5分余り下ったところで水の流れが出てきた。そしてすぐ4m 2段滝。左岸を迂回したが、クライミングダウンも難しくない。そのあとすぐ岩質が変わる。今度は花崗岩である。

滝を期待して下ると、すぐに2個の連続する小滝。よく磨かれているが、フリクションをきかせてクライミングダウンする。宮川流域の花崗岩帯は、5~10mクラスの滝が、結構期待できる。

5m階段状滝は、右岸を下る。コケがついていてスリッソウになりちょっと緊張するところもあったが、ホールドは多い。このあともよく磨かれたナメ滝が続く。割合とホールド少なく、慎重に下る。

7:40 下降終了。短い結構楽しい下降であった。

(記)

〔タイム〕 641m独標(7:00)→下降終了(7:40)

